

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	鏡の間
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 5 : 59 - 59
Issue Date	1972-04-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045062
Right	
Relation	



鏡の間

ねずみをとらないねこ

F M 女

いなかのひろくて古い家の中から、太っちょのおばさんがあわてて走り出てきました。手には竹のぼうきを持っていきます。

「こんなにいいやお米を食べられてはこまってしまう。どこへにげてしまったんだろう。」

きよろきよろそのあたりを見まわしていたおばさんは、気もちよさそうに日なたぼっこをしているねこを見つけて、

「まあ、このねこったら、ちっともねずみをとらないで。おかげで家はねずみだらけだわ。」

いつものやさしいお婆さんとはべつの人のようにぶりぶりおこりました。

ねこはなにかいたそうにしましたが、「このお婆さんには、ねこ語がわからないしこまったなあ。」というような顔をしています。

もしお婆さんにねこのことばがわかるのだったら、ねこはきつとこんな話をしたかったでしょう。

まだわたしも小さかった時は、大きくなったらどんなふうにしてねずみをつかまえようかしら、たのしみだなあ、と思っていました。そんなある日、やっばりこんなにあたたかいのでうとうとねていると、いつのまにかわたしはねずみの国へ来ていました。

ねずみたちはつかまえるのもかんだんで食べてみるととてもおいしいのです。すこしの間に大きいのを小さいのをいくつもいくつも食べてしまいました。

「ドゥカーン。」あっ、今までたべたはずのねずみがみんな、わたしのやぶけたおなかをみてわらっています。

大きな音でおどろいて目がさめたわたしは、何度もゆめでよかったと思いました。でもそれからはどうしてもこわくて、ねずみを食べられないのですよ。ごめんなさい。

お婆さん。このねこちゃん、かわいそうだから、ねずみをとらないでもあまりおこらないで。なまけものでないけれど、ねずみをつかまえられるねこもいるのよ、きつと。

(横浜・屏風ヶ浦小学校四年生)

数学と作文

K K 男

ぼくは数学がすきだ。それはできるからだ。作文はきらいだ。字がなければ作文なんかかない。作文がきらいなのは何を書いても恥ずかしいからだ。友達はどうして書けるかぼくにはわからない。作文が数学と同じようにできれば、作文も好きになる。

一年生の時は、恥ずかしいも何も考えなかったからすらすら書けた。

(聖徳小学校英才学級・二年次生)

本号の特集「うそ」に関連ある上の二つの作文を選んで、その幼な心の発達を考えてみたいと思つた。

Olympia TYPEWRITER

ドイツ技術の粹と、クルップ鋼の誇りを内に秘めた“オリンピア”
世界中の国々の、世界中の人々は深く限らない信頼を寄せています

西銀タイプ社 事務機械部

東京都中央区湊町 1-4 電話 03-551-0058
相模原市相模台団地 3-7-504 電話 0427-44-8504

